

令和元年度老人保健健康増進等事業

退院からの通所・訪問リハビリテーション・医療提供施設への円滑な移行  
に関する調査研究事業

公益社団法人 全日本病院協会

## 1. 本調査研究の目的と内容

本調査研究は、疾患別リハビリテーションから維持期リハビリテーション等への移行の円滑さが求められること、介護保険への移行が進められている要介護者・要支援者への生活期のリハビリテーションには、特に医療・介護間の連携が求められることを踏まえ、医療・介護間のリハビリテーションの連携に関する実態や課題を把握し、今後のいっそうの連携の推進に資する知見を得ることを目的として実施した。

調査研究にあたっては、「病院・診療所」「介護老人保健施設」「介護医療院」「通所リハ事業所」「訪問リハ事業所」の5者に対し、郵送による発送・回収を行うアンケート調査と、それに先立つ事前インタビュー調査を実施した。

## 2. 本調査研究の主な結果

- ①退院後に、介護老人保健施設や介護医療院に入所した者や、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションに移行した者についてみると、介護老人保健施設・介護医療院・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションともに、筋力向上訓練、関節可動域訓練、歩行・移動練習などの、身体機能に働きかける実施内容の実施割合が大きい。これに対し、更衣・調理・掃除等の生活行為や、仕事・余暇活動練習等の社会参加に関する実施内容の実施割合は小さい。
- ②退院から通所・訪問リハビリテーションまでの日数（タイムラグ）について、利用に関する事前の相談や、退院の連絡の時期別にみると、早期の相談・連絡を行ったケースほど、タイムラグの平均値は短い傾向がみられ、退院2日前以降になると、タイムラグは顕著に長くなる傾向にある。入院していた医療機関からの診療情報提供書の提供時期については、遅くなるほど顕著にタイムラグが長くなる傾向にある。
- ③タイムラグの長さやADLの変化との関係についてみると、退院後に通所リハビリテーションに移行した者については、退院から通所リハビリテーションの利用開始日までの日数（タイムラグ）が14日以内の利用者は、15日以上の利用者に比べて、利用開始からその1ヶ月後までのBIの上昇幅が、有意に大きい。また、退院後に訪問リハビリテーションに移行した者については、退院から訪問リハビリテーションの利用開始日までの日数（タイムラグ）が7日以内の利用者は、8日以上の利用者に比べて、利用開始からその1ヶ月後までのBIの上昇幅が、有意に大きい。